

田の神さあ余話

― 路傍の尊格 ―

『田の神さあ』は多様な石像

田の神さあとは、南九州にみられる豊穣を祈る神様の石像のことです。

田の神さあ像の形状は数種類あり、「農民型」、「神官型」、「地藏型」、「女神型」など種類分けされます。なかにはただの天然の石や、石碑の表面に「田之神」という文字が彫刻されたもの、大黒天や恵比寿を田の神さあとして祀っている例もあり、実に多様です。垂水市においては「農民型」と「神官型」がそのほとんどを占めています。野久妻の鎮守神社拜殿にある「とっかぶいさあ」と呼ばれるものは、自然石に藁苞わらぼうがか

ぶせてあり、これは『田の神さあ』の原型との説もあります。

現在、市内には幾つかの田の神さあ像が現存しており、牛根地区に5点、海潟地区に2点、中俣地区に1点、市木地区に1点、田神地区に3点、水之上地区に1点、新城地区に2点となっています。このほか柘原地区に平成になってからつくられたものが2点あります。

民間信仰との深い関わり

それらとは別に、柘原地区と新城地区の境界に、地元の方が田の神さあと呼称する石造物があり、ここでキ

ウリを2本すりあわせて投げ捨てる
と、イボが取れて肌がきれいになる
というおまじないが伝わっています。

『イボの神』も県下に散見する民間信仰のひとつですが、疱瘡など重篤な伝染病からの回復を願うものでもありました。このように田の神さあが豊穣神以外の側面を持っていたり、ほかの信仰と習合したりしている例はほかにもあります。例えば庚申信仰の『青面金剛像』（新城のカネサツドン、水之上の今川原のサツドンなど）は、田の神としての役割をもつて信仰されています。なぜなら像が、雑草の種をまくともいわれる天邪鬼を踏みつけているため、これを成敗している青面金剛が副次的に農業神としての性格を帯びていると言えるからです。

また、庚申信仰は特定の晩に夜通し寝ないでいることがあります。これは勢至菩薩や月読尊を本尊とする『月待講』とよく似ています。垂水の伝統菓子『夜待ち団子』（二十三

夜まっちゃんだご』は、この月待信仰に関係するものであり、ほかに青面金剛は、鹿児島島の禁圧された浄土真宗文化『かくれ念仏』と親和性があったりします。

田の神さあをはじめ、道端などの野外にみられる石像は、いくつもの宗教や民間信仰が絡み合っており、地元住民のあらゆる祈りを集めながら、今も大事にされています。田の神ならぬ、『多の神』さあといったところでしょうか。



▲ 田の神1号（新城の神貴神社境内）

【参考】『垂水市の文化財』（1984年）

（垂水史談会 中谷潤心）

GIGAスクール通信 vol.49

本市の全小・中学校で、文部科学省指定による研究開発学校「情報活用能力の育成」のカリキュラムの研究が新たに始まり、垂水市のGIGAスクール構想は、次のステージに入りました。ここでは、市民の皆様へ、その取組の様子を紹介することで、本市の教育活動に、より親しみをもっていただければと思います。

本市では「GIGA スクール構想」のもと、令和8年度のテーマを「垂水らしい教育DXの創造」（下図）と掲げました。今年度も、学校教育がいっそう充実したものとなるよう、さらなる推進を図ってまいります。

令和8年度テーマ

垂水らしい教育DXの創造（2年次）

主軸

① 義務教育9年間を見通した情報活用能力育成モデル

② 「ふるさと垂水」における総合的な学習の時間の充実

基礎研究 拡充・継続

全小中学校による「情報の時間」・「ふるさと垂水」の教育課程の研究

授業改善 継続

ICTを活用し、子供が自ら学ぶ授業（予習型反転学習・自由進度学習）の推進

質の高い教育 拡充・継続

授業・教育活動・校務における、より一層のICT活用促進

垂水らしい教育DXの創造を目指して

昨年度は、本市の取組が「日本ICT教育アワード」で最高賞となる文部科学大臣賞の受賞につながるなど、「垂水らしい教育DX」の創造に向けた内容が全国的にも評価されました。今年度は、垂水ならではの「ふるさとのよさ」を深く学ぶとともに、タブレット端末を活用して自分の思いを表現し、市内外に向けて発信するなどの活動を、すべての学校で実践していきます。この3月、垂水小学校の6年生は卒業に向けて、「友情」をテーマにした短編映画を制作し、自分たちの成長を実感する学習となりました。自宅で作品をご覧になった保護者もおられました。このように、端末は、子どもが保護者の方と一緒に学校の教育活動について語り合うツールにもなっています。



▲ 映画をタブレットで制作している様子